



叶神社

源氏再興の願いが成就したため、源頼朝が「叶神社」と名づけた由緒ある神社。「叶う」という文字にあやかうと、たくさんの人が恋愛祈願に訪れます。東西二つの神社を回って願いを「叶」えましょう。

「叶」の云われ

「願いが叶う」の「叶」という文字を名前に持つ叶神社。この名をつけたのは、鎌倉幕府を開いた源頼朝です。

社伝によると、養和元年（1181）に、源氏の再興を願った京都神護寺の僧・文覚上人が、源氏の氏神である石清水八幡宮を勧請したのが神社のはじまり。

その後、文治2年（1186）、源氏再興の願いが成就したという意味を込め、「叶大明神」と改めたと伝えられます。

そこから、心願成就のご利益がある

と信仰されるようになり、近年は縁結びの願いも叶えてくれる神社として新たに注目を集めています。

ご祭神は、石清水八幡宮と同じ、ホンドワケノミコト（菅田別命）、即ち第15代応神天皇。比売大神とオキナガタラシヒメノミコト（息長帯比売命）即ち神功皇后がともに祀られ、八幡大神と称されています。

実は叶神社は、浦賀湾を挟んだ西と東に、二つあるのです。

まず西の社殿へ

バス停・紺屋から歩いて数分のところにるのが西叶神社。バスが通る道



沿いに一の鳥居があり、そこからまっすぐ神社に向かって参道が伸びています。

現在の社殿は、江戸時代の天保13年（1842）に再建されたもので、再建に要した費用は約三千両と言われています。

西叶神社の石段を登ってお詣りすると、社殿に施された彫刻がまず目に留まります。安房を代表する彫刻師、後藤利兵衛義光が、まだ若いときに彫つ



たもの。

拝殿の正面には、迫力のある龍の姿ほかに、獅子や象、梅に鶯など、さまざまな彫刻を目にすることができま

渡し船で東の社殿へ

東西の神社を行き来するには、渡し船を利用するのが便利です。「浦賀の渡し」が2〜3分で対岸へ運んでくれます。



アクセス情報

京浜急行線「浦賀」より京浜急行バス
西叶神社…バス停「紺屋」下車徒歩1分
東叶神社…バス停「新町」下車徒歩6分
西叶神社
横須賀市西浦賀1-29
☎046-841-0179
東叶神社
横須賀市東浦賀2-21-25
☎046-841-5300



東叶神社は海沿いに鳥居があり、拝殿までの石段を登って振り返ると、海がきらきらと輝き、心和ませてくれます。

石段の両脇には、源頼朝が伊豆から移植したと伝えられる蘇鉄そてつもあり、明るく開放的なたたずまい。

拝殿の後ろには、常緑樹を中心とする自然林の残る明神山が控え、神奈川県天然記念物に指定されています。

ペリー来航の港町

東京湾の出口に位置する浦賀は、陸地に深く入った天然の良港があり、昔から港町として繁栄してきました。

江戸時代には奉行所が置かれ、幕末の嘉永6年（1853）、ペリー艦隊の来航——俗に言う黒船の対応にあたりました。

のちに、勝海舟たちが、咸臨丸で出航した港でもあり、日本の近代化とかかわりの深い町です。

京浜急行電鉄本線の終着駅となる浦賀駅は、三浦半島東端の観音崎への起点となっています。

映画『ゴジラ』で、ゴジラが観音崎に上陸したことから、浦賀駅では『ゴジラのテーマ』が流れています。



ラ・ベントラ

海に面したイタリアンレストラン。渡り蟹がまるごと入ったパスタがおいしい。前菜・デザートがついたランチコースも。

☎046-843-0629



渡し船

のんびりと行き交う渡し船。青い海に赤い色が映える。乗船時間は3分ほどだが、プチ旅行気分が味わえて楽しい。



浦賀の渡し

東西の叶神社にお詣りするには、船での行き来が便利。朝7時～夕方6時まで利用できる。昼休みがあるので気をつけて。



恵仁志坂の碑

東叶神社にある石段には、「恵仁志坂（えにしぎさか）」「産霊坂（むすびざか）」という名前が付いています。拝殿から奥の院に続く石段に、「えにし（縁）があつて結ばれ、願いが叶う」という意味があるそう。200段以上ありますが、良縁を願って元気に登りましょう。

頂上からは、東京湾を行き来する船が見えます。ここには、かつて勝海舟が、咸臨丸で太平洋を横断しアメリカに向かう前に断食修行をした跡が残っています。

ご利益情報

♡ 縁を結ぶ「えにし坂」

ご利益情報

♡ 勾玉と袋をセットで、結ばれる日待つ

西叶神社では勾玉のお守り、東叶神社ではそれを納める袋が授与されます。

二つのお社をめぐっていただいたお守りを一つにして願いをたくす縁結びのお守りです。



勾玉とお守り袋



Column コラム

式年遷宮とは？

平成25年（2013）に向けて、神宮（伊勢神宮）では式年遷宮の行事が進行中です。

式年遷宮とは、定期的に社殿を造り替えて神を新しい宮に遷すことです。伊勢神宮では20年に一度、外宮と内宮の正殿はじめとする建物や、装束なども改められます。

式年遷宮が行われる理由は、建物の老朽化から立て直す必要があり、造りかえることで清浄であることが保たれると考えられているから。同時に建築様式や建築技術を伝え続けていくという意味もあり、1300年続いてきた行事です。